

# 【山梨県甲州市】 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 (運動部活動の地域移行に向けた実証事業)

本報告書は、スポーツ庁の「令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）」の一環として、山梨県（甲州市）が実施した「令和5年度運動部活動の地域移行に向けた実証事業」の成果を取りまとめたものです。



# 1. 自治体の基本情報

## 基本情報

人口	29,628人	部活動数	51部活
公立中学校校数	4校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	667人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

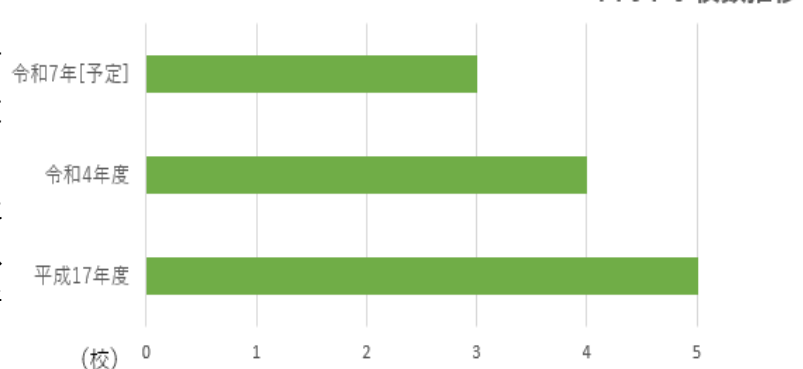
## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

### 甲州市における地域連携・地域移行の現状

過疎化と高齢化、また全国的な傾向である少子化によって、市内中学校の統合・廃合が進み、市町村合併した平成17年当時、市内に5校あった公立中学校は、現在4校に減り、令和7年度には3校まで減少予定である。

このように少子化の影響のに対し、部活動種目の適正な維持と、段階的な地域移行を促進するため、当市ではコーディネーターの配置と推進委員会の設置し、令和5年度は市としての地域移行への方針を策定、令和6年度は試験的な地域クラブの設立と移行準備、学校や地域への調整を行い、令和7年度には段階的な地域移行を進めていく予定である。

市内中学校数推移

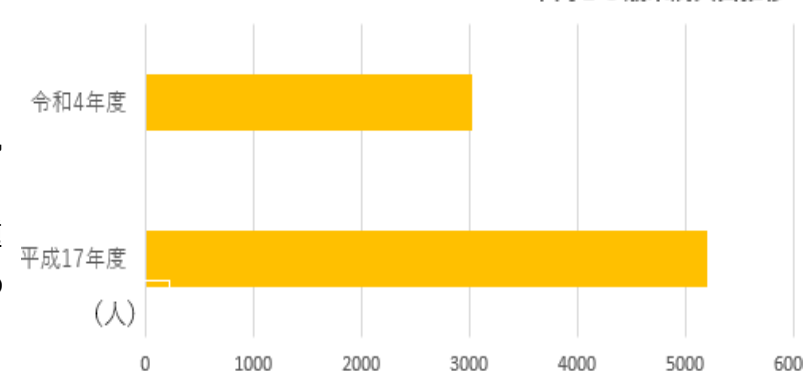


### 甲州市における地域連携・地域移行の課題

少子化の波は、部員数の確保困難による休部や、団体種目の部員数が足りず、既に他校と合同で部活動を行っている種目もあり、運動種目の適正な維持・継続とが徐々に難しくなっていく状況である。

このため、市内中学校での運動部活動の整理や合同化を進めて、地域連携等により存続する種目と、地域移行への促進を図る二種類のパターンへの仕分けを行っていく方針であるが、どちらを進めるにも過疎地区であり、スポーツ人口も少ないため指導者確保が大きな課題となる。

市内15歳未満人口推移

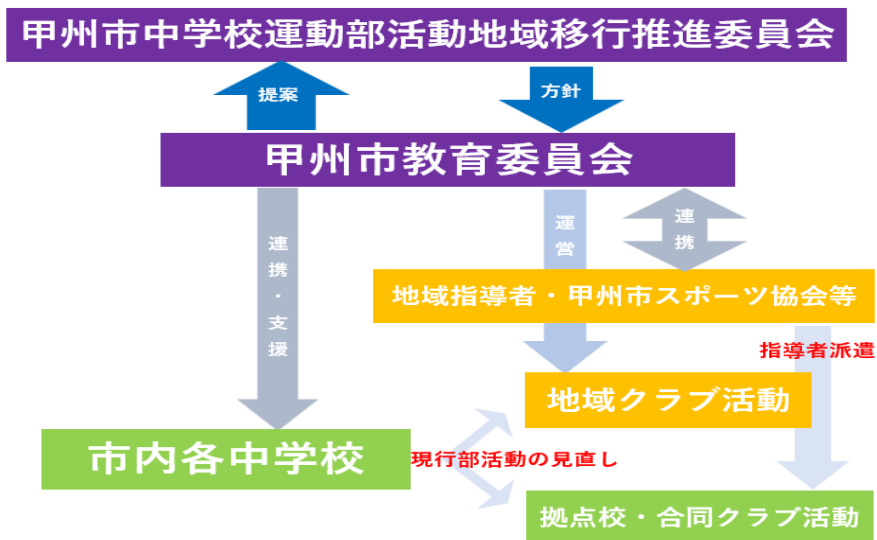


## 2. 実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ▼運営体制図（市区町村における推進体制図）

（運営体制図）



#### ▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会（生涯学習課）**  
運動部活動の地域移行を主体となり行うため、コーディネーターの配置による方針案の検討と策定及び調整、甲州市運動部活動地域移行推進委員会の事務局の運営等
- **教育委員会（教育総務課）**  
市内小・中学校の統括をによる、部活動現場での教職員、生徒と保護者などの意見取りまとめ等

### 年間の事業スケジュール

年間事業 スケジュール	令和5年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	地域移行コーディネーター委嘱 第1回運動部活動地域移行推進委員会 市内各中学校現場訪問 市内各校教職員意識調査 第2回運動部活動地域移行推進委員会 第3回運動部活動地域移行推進委員会											

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

### 取組内容

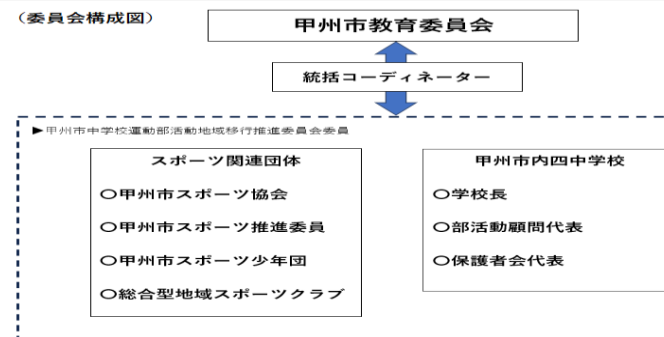
#### ▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

#### 取組事項

- コーディネーター 2名の配置
- 関係団体・市町村等との連絡調整等
- 運営団体・実施主体の体制整備や質の確保

#### 取組の成果

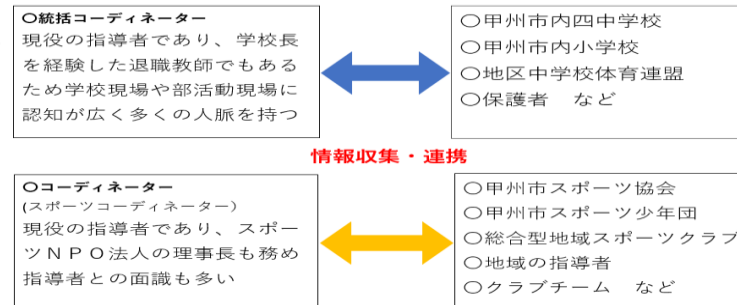
地域移行の取り組み初年度となる令和5年度は、5月に地域移行のコーディネーターを2名配置して、市としての基本方針の策定に取り組んだ。また甲州市運動部活動地域移行推進委員会を立ち上げ、委員にスポーツ協会、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ代表、学校関係者などを委員に選定して、現状と課題の説明、市としての方針等を説明して連携を図り協力体制を構築した。



#### 特に工夫した事項

それぞれ特性の異なるコーディネーターを2名配置することにより、角度の違う多角的な意見の創出することができ、またそれぞれの人脈を生かした情報収集などが、市としての地域移行の素案の策定に非常に役立てることができた。また市内各学校を訪問し、学校としての組織だった体面を気にした意見だけではなく、現場へでの指導者生の声を聞き、そしてアンケートなど実施したことにより、実情にあった部活動改革の方針策定の基礎につながった。

#### (コーディネーターの役割)




#### 今後の課題と対応方針

昨今は、市の人口が3万人程度と少なく少子高齢化も進んでいるため、比例してスポーツ人口も少なく、地域での受け入れ態勢や指導者確保が大変困難であり、また地域移行の受け入れとなりうる団体も少ない。

# 2. 実証内容と成果

## 参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

第三回  
甲州市中学校運動部活動  
地域移行推進委員会資料



令和6年2月26日

目次

令和5年度の地域移行への取り組み P3

甲州市が目指す地域移行 P7

方針① 現状活動可能な部活動(現状維持) P11

方針② 活動種目の見直しを行う部活動(地域連携) P13

方針③ 地域クラブ活動(地域移行) P23

甲州市の考える新しい休日の部活動形態への移行(まとめ) P27

方針②(地域連携)

単独部活動可能かつ試合出場可能校と、単独で試合出場不可校の場合の部活動(全ての校が試合不可も含む)

○複数校での合同部活動

- \*部活動であるため、顧問が立ち合いを行うことを基本とする。
- \*但しクラブ化により、地域指導者または兼職兼業を届け出た教職員に現場管理を移行可能。
- \*教師の負担軽減のため地域の外部指導者導入等を検討。

方針②(地域連携)

○拠点校方式(平日の活動も本人の考えで参加可能)

その学校には無い種目を行うため、生徒自身が他校の部活動に参加する場合。

- \*拠点校の顧問が指導を行うが、他校から参加する生徒は、公式大会に参加には、市教育委員会と市推進委員会の許可が必要。
- \*大会参加は学校としてではなく、地域クラブとして登録し参加することが望ましい。
- \*教師の負担軽減のため地域の外部指導者導入等を検討。

学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する

総合的なガイドライン(概要)

令和6年2月26日

山梨県の取組(抜粋)

山梨県

- ・市町村担当者会(4回)を開催
- ・「休日の部活動は原則行わないこと」を踏まえ検討
- ・R7年度末を目標に地域の実情に応じた段階的に移行
- ・地域クラブ活動受入・活性化のため、教育内大会参加の在り方について、県小体連と協議
- ・「やまなし学校部活動及びやまなし地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を令和5年12月に制定
- ・県内各校の児童、生徒、保護者、教員に意識アンケート調査を実施
- ・山梨県人材バンクのシステムの稼働開始(R6年3月予定)

土日の運動部活動を集約した場合(案)

運動部	平日	土曜	日曜	祝日	平日	土曜	日曜	祝日
サッカー	○	○	○	○	○	○	○	○
バスケットボール	○	○	○	○	○	○	○	○
バレーボール	○	○	○	○	○	○	○	○
ソフトテニス	○	○	○	○	○	○	○	○
ソフトボール	○	○	○	○	○	○	○	○
卓球	○	○	○	○	○	○	○	○
剣道	○	○	○	○	○	○	○	○
柔道	○	○	○	○	○	○	○	○
射撃	○	○	○	○	○	○	○	○
水泳	○	○	○	○	○	○	○	○
陸上	○	○	○	○	○	○	○	○
バドミントン	○	○	○	○	○	○	○	○
空手	○	○	○	○	○	○	○	○
相撲	○	○	○	○	○	○	○	○
その他	○	○	○	○	○	○	○	○

地域クラブ活動とは...

地域クラブ活動は、普段は別の学校部活動を行っている生徒が、興味を持ち「やってみよう」と思うスポーツや芸術活動のニーズを、地域が汲み取り指導を担うことにより活動が行われるものであり、今のところ「休日限定」となる活動です。

よくある競争のための「技術向上」のみを目的とした活動とは異なり、様々な体験を通して、生徒同士が勝ち負けにこだわらずに、本当に楽しんでいるか取り締める機会を提供することが、地域クラブでの活動の趣旨となります。

地域クラブ活動は、学校での部活動種目だけでなく「ダンス」や「e-スポーツ」、「囲碁」、「将棋」など、多岐に渡る地域での活動に、学校の枠を超えた取り組みとして参加することを旨とした活動です。

甲州市の取組

甲州市

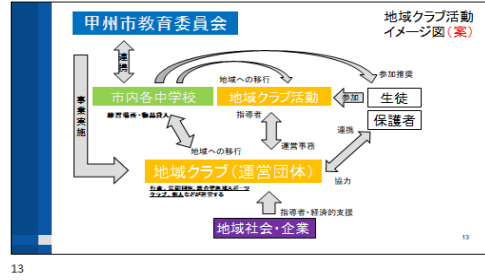
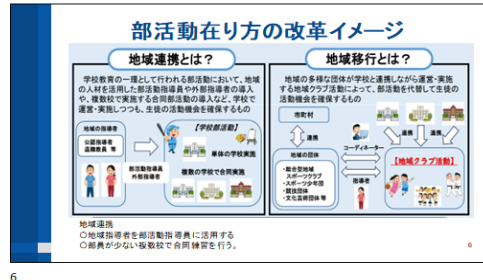
R5. 5月 部活動地域移行コーディネーター委嘱  
\*事例の考察や他市との意見交換を行う地区スポーツ改革ミーティングを毎週実施して案審検討を行う

6月 スポーツ振興ブロック会議にて地域移行について各分野での意見交換


7月 第1回甲州市中学校運動部活動地域移行推進委員会  
~8月 中学校部活動現場訪問(松林中、塩山中、勝沼中、塩山北)

11月 B&G全国教育長会議出席(今年度は地域移行を議題とする会議)  
第2回甲州市中学校運動部活動地域移行推進委員会

R6. 2月 第3回甲州市中学校運動部活動地域移行推進委員会



甲州市の考える新しい休日の部活動形態への移行(まとめ)



甲州市が考える休日の部活動形態への移行(案)

方針① 現状活動可能な部活動(現状維持)

現状では移行案の中にはないが、状況により発生

○単独で練習・試合が可能な種目が複数校存在する場合など

方針② 活動種目の見直しを行う部活動(地域連携)

種目の整理による効率化【令和7年4月スタートを目標】

○市内校との合同部活動化

○拠点校制度の推進

方針③ 地域クラブ活動(地域移行)

地域移行の受け皿となる地域クラブにより、種目を問わず休日のスポーツ活動を担う【令和7年4月スタートを目標】

○一部種目を試験的に地域クラブへ移行【令和6年9月目標】

方針①(現状維持)

○一土日単独(大会前以外は月2回の目標)

平日土日の部活動形態も集約した場合は、○には記載しない

現状、少子化による部員数の減少など加味したうえ、各中学校で単独に部活動を行い、単独で試合に出られる状況である部活動の場合などに適用(事務局では案審案に推奨していない)

○単独部活動

- \*土日も顧問が立ち合いを行うことを基本とする
- \*但しクラブ化により、地域指導者または兼職兼業を届け出た教職員に現場管理を移行可能
- \*教師の負担軽減のため地域の外部指導者導入等を検討

甲州市の進めていく地域移行は...

地域移行を進めていくには、地域、学校現場、保護者の理解と、新しい部活動の形を受け入れて定着させることが必要であると考えます。

- 現状の把握 → 国の政策(少子化対策、働き方改革)
- 考え方の変革 → 将来の社会状況により現状維持は困難
- 地域の協力 → 地域クラブ活動の促進はスポーツを含め地域の活性化につながる

甲州市が考える休日の部活動形態への移行(案)

国が進める、少子化問題と教師の働き方改革に端を発する中学校の部活動地域移行について、「甲州市教育委員会」では、以下の3つの活動の方針により段階的な地域移行を目標に事業を進めていきたいと考えています。

方針① 現状活動可能な部活動(現状維持)

方針② 活動種目の見直しを行う部活動(地域連携)

方針③ 地域クラブ活動(地域移行)

※全員入部制度の改革、休日の部活は月2回なども同時検討



## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（活動写真）



【2023. 07. 03第 1 回運動部活動地域移行推進委員会】



【2023. 11. 29第2回運動部活動地域移行推進委員会】



【2024. 2. 26第3回運動部活動地域移行推進委員会】

## 2. 実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



- 年3回（7月、11月、2月）、推進委員会の実施。
- 部活種目の整理と地域クラブの体制整備に向け、甲州市としての基本方針について協議、決定をした。
- 令和5年4月コーディネーター2名を委嘱、7月「甲州市中学校運動部活動地域移行推進委員会を設置」構成は教育長を顧問、スポーツ推進審議会、スポーツ協会、スポ少、スポーツ推進協議会、総合型地域スポーツクラブ市PTA代表、市内中学校長、運動部活動顧問を中心に委嘱。
- 教員間の意識の相違に課題が見られた。

- コーディネーターが主体となり地域クラブ指導者への声かけ。
- 令和6年度に部活動整理を行う際、季節部であるラグビー部の指導者に声かけしたところ、興味を示したため地域クラブ設立の打診を行った。
- 創設前であるが、受益者負担の方法や地域クラブを統括する体制が決まっていなまでの方針決定となった。
- 部活動整理に辺り、現在活動中の部活動の地域クラブ化は、ハードルが高いため、季節部である種目から声をかけて実施への合意に到った。

- 市事務局で学校現場と児童・生徒・保護者向けの説明会を開催。
- 令和7年度から部活動整理等の開始に向け情報量の少なかつた児童生徒保護者への情報補填と理解促進をにより地域クラブ活動の活性化につなげる。
- 説明会の対象は、際限なく広がるので、最低限の公平性を保つためどの程度までをよしとして広げることが課題となる。
- 甲州市の特性として、地域移行には、学校現場での意識差をなくすことの方が重要ではないかと考えるためより密に連携を行える体制を構築する。

- 学校現場との調整により部活動の地域クラブ化の促進。
- 現状の部活動整理により、将来の地域クラブ化の足掛かりとする計画であるが、生徒数や顧問の専門性など、状況により移行可能な種目を見出すことも可能であると考え検索を行う。
- 現状の形での部活動に固執する教員も少なからずいるため、如何に啓蒙して意識改革を行うかが課題である。
- 学校や顧問などと緊密な連携を取り計画外の種目にも地域クラブ化が可能な種目を探し出す。



### 3. 今後の方向性

#### 地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

	2023年度（R5年度）	2024年度（R6年度）	2025年度（R7年度）以降
運動部活動	<p>—意識調査—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの実施</li> <li>部活現場の実態視察</li> <li>他市の情報収集</li> </ul>	<p>再編種目の決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合同部活動開始への調整</li> <li>拠点校制度開始への調整</li> <li>人材バンク等活用による外部指導者の斡旋</li> </ul>	<p>新しい形の部活動スタート</p>
甲州市教育委員会	<p>甲州市の方針策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コーディネーターによる素案作成</li> <li>○推進委員会による検討</li> </ul>	<p>新しい部活動への準備調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒</li> <li>○保護者</li> <li>○学校・教員</li> <li>○地域</li> <li>○スポーツ関係機関</li> </ul> <p>周知・説明を行い理解を求め</p> <p>委員会による更なる検討</p>	<p>更なる部活動の地域移行を推進（将来的な平日移行も検討）</p>
地域クラブ		<p>地域クラブ設立準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○運営者指導者の選定</li> <li>○各学校施設との調整</li> </ul> <p>—モデル事業— 試験的に一部種目の地域クラブ活動実施</p>	<p>段階的に地域クラブ活動スタート</p>